

円安が進んでいます。小売業者らは悪戦苦闘、消費者からは困惑の声も聞かれます。



円安 上物昇 困る

円安が進んでいる。製造業など輸出企業にメリットがある一方、燃料や輸入穀物の価格が上昇し生活にはマイナス面もある。県内の小売業者らは店頭価格への転嫁を避けようと悪戦苦闘、消費者からは「家計が苦しくなる」と困惑の声も聞かれる。

仕出し・弁当製造販売のまるみや（大分市）では、今月に入つて卸業者から小麦粉や、こんにゃくなど一部材料を値上げすると連絡

する。消費者は「景気が良くない」と声をそろえる。「年金暮らしの身に食品や電気代の値上がりは苦しい」と大分市片島の主婦、高野節子さん（70）。

小売業 「価格転嫁できず」 消費者 「給料増えぬのに」

大分市の大手小売業者によると、食用油の仕入れ価格は5月から8～10%上がると予定。担当者は「他店との価格競争もあり、すぐに小売価格に転嫁するわけにはいかない。仕入れ方法の工夫など、コストカット策を考えなければ」と話す。

円安による燃油价格上昇は、花店にも影を落とす。「花の栽培には燃料や電気が欠かせないため、この数ヵ月で贈答用のランの仕入価値は2割上がった。価格

同市羽田の会社員女性（30）によると、「給料は据え置きで物価が上がるのは困る。食べ盛りの子どもがいて食費がかかるのに」と不安げ。当者はため息をつく。

8%以上上がる消費税について、同市椿ヶ丘の会社員、甲斐哲さん（57）は「景気が向いても消費税率が上がれば、消費者は苦しいままで」と疑問を投げかけた。

③円安が進んでも困らない好循環はどういったサイクルでしょう。考え、話し合ってみよう。

①円安が進むとなぜ困るのでしょうか。記事内の業者、消費者を例に考えてみよう。

②円安により利益が生まれる業種があります。どういった業種でしょう。また、困る業種をほかに考えてみよう。

（2013年4月29日朝刊19面）